

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)			
学校運営方針	志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成をめざし、「さらなる飛躍をめざす糸高」のもと、生徒一人ひとりの「確かな学力」と「豊かな心」「健やかな身体」の三位一体的な形成を基盤とし、生きている力を醸成し、自己実現をめざす。	A			
昨年度の成果と課題	<p>年度重点目標</p> <p>全職員の組織的で相互補完的な指導体制により、生徒の生活態度・学習態度は大変良好な状態を維持している。今年度も、生徒の学力向上と全人的な成長を期して、教師の授業力向上と生徒一人ひとりに寄り添う指導の充実を図りたい。</p> <p>福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」による研究開発も最終年度を迎え、九州大学との連携、最新の手法や機器の習得等による、研修の成果が問われる年度である。さらなる飛躍の一助とすべく、これらの成果を学習指導、進路指導に取り入れ、さらに具体的に実践したい。</p> <p>また、平成31年春のJ R 新駅開業を、本校の新たな時代を画す契機とし、本校の魅力第6学区の全中学校生・保護者に知らせるべく、広報活動のよりいっそうの充実を図る。</p>				
具体的目標			具体的方策		
評価項目	具体的目標		具体的方策		
生徒育成部	教務課	「確かな学力」を育む基盤として、高い出席率の維持と授業規律の徹底を図る。	学校全体の出席率99%を目標とし、生活習慣の確立を学習習慣の確立へとつなげ、学力向上を図る。	A	①「主体的・対話的で深い学び」の研究開発の波及および実践を推進する。特にアクティブ・ラーニング型授業のさらなる導入と評価についてのさらなる研究を進める。②公開授業等ではアクティブ・ラーニング型授業やICT機器を活用した授業を実施する。③観点別評価に立った授業や定期考査問題の作成により、思考力・判断力・表現力を問う大学入学共通テストへ対応する。
		学力向上を目指した能動的な学習姿勢の基礎を育てる。	思考力、判断力、表現力を観点別評価に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」を促す。	A	
	広情報課	各中学校・学習塾への積極的な広報活動を行い、本校の教育活動に対する理解を深めていた。	組織的・協働的な広報活動を戦略的に、情報共有の徹底を図る。	A	
生徒指導課	H P を充実させ、リアルタイムな情報を随時発信し、本校の魅力をアピールする。	「各分掌・学年・部活動顧問」の担当者が計画的にH P の内容を更新することで、タイムリーに情報を提供する。	A	①年4回の中学校及び学習塾訪問の組織的な取組をより効果的に行っていく。そのため、教務課や広報情報課の担当スタッフの分担制度等の導入を検討する。②年2回の学校説明会については、部活動や模範授業等、生徒参加型の学校説明会を導入する。③本校ホームページの充実を図るため、「部活動・学年通信」は、各顧問、学年担当者が行事や大会毎に速やかに発信する。他の更新については、定期的更新日(週1回)を設定し、最新の情報提供を行う。	
		インターネットを活用し、A L 型授業(反転学習法)を充実させることで、次世代教育への授業力改善に繋がる。	B		
	校訓を具現化する生徒の育成及び集団の形成を図り、充実した高校生活の確立を目指す。	校内規則の遵守により規範意識の醸成を図り、系高生としての自覚を高める。 (登下校時間、ケータイ・スマホの「糸高ルール」の遵守等)	A		
進路指導課	広い視野を持って自らを向上させようとする意識を持たせ、より高い進路目標に向かって努力できる環境を整える。	高大接続改革の視点に立ち、思考力・判断力・表現力を身につけさせ、新テストに対応できる力を育成する。	A	①登下校マナーやルールのいっそうの徹底を図る必要がある。特に、接触事故を含めた交通事故の際に、保護者や警察、学校への迅速な連絡などについて指導強化を図る必要がある。②部活動加入率のさらなる上昇を図っていく。そのための方策として体験入部や学年集会、放課後の部活動見学、顧問や部活動生から直接的な勧誘を積極的に行うなどする。③不登校生徒への対応として、職員間の情報共有を図りつつ専門の外部機関との連携を進めていく必要がある。④ケータイやスマホについて糸高ルールの定着を進める。SNSトラブルの未然防止を早期発見・解決のためのネットパトロール体制についても改善を行う。	
		一般入試に対応できる力の養成に努め、国公立大学50名以上、西南学院大学100名以上、福岡大学150名以上の合格を目標とする。	B		
	模範成績のデータを生徒に具体的に示し、自らの可能性を認識させ、より高い目標が持てるよう指導する。また、各種資格の取得率向上を図る。	A			
研修図書課	教員一人ひとりの資質向上及び学校改善、改革につながる研修の機会を充実させる。	本校の課題認識及び解決のための校内研修会を年5回以上計画し、実施する。	A	①授業改善や生徒指導に関する研修会について、参加体験型を多く取り入れ、より効果的な内容とする。そのため、必要に応じて外部講師の招聘を行うなどする。②生徒の読書活動を推進するため、図書委員会と連携して、生徒が読書に対する関心を高めるような図書展示になるよう工夫・改善を行う。③各分掌や教員・学年とも連携し、関連図書コーナーを設置することで、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。	
		校外研修会への積極的な参加を促し、基本研修の内容についても共有を図る。	A		
	図書館・視聴覚室の各施設が、生徒にとって親しみやすく、快適に利用できるよう努める。	年2回、7月と12月に運営会議を実施するなど、生徒及び各教科に必要な図書を購入しに努める。	A		
保健課	生徒が心身共に健康な生活を送れるよう、職員間の共通理解を図り、指導とサポートに役立てる。	生徒の興味を引く図書展示の工夫と情報誌『らいぶらりい』を発行し、図書館利用のPRと読書への関心を高める。	B	①保健だよりは毎月初めの発行を基本とし、学校行事等の予定によって解力的に配付するなど、生徒が読みやすいように丁寧な工夫をする。②保健室利用状況の統計調査を引き続き行い、経年比較や過年度比較を行う。傾向を分析し、職員に周知することで指導に活かす。③美化委員会の連携を密にし、生徒の自発的な美化活動を奨励するとともに、サポートする。第四に大掃除や環境整備について行事日程に基づき、十分に余裕をもって学校全体で計画、実施する。	
		清掃活動の徹底を行い、「きれいな糸高」を全職員・生徒で実現する。	美化コンタールの実施：年間1回(2学期)、ワックスがけの実施：年間3回(5月、10月、3学期)		A
	式典(入学式、卒業式、始業式、終業式、創立記念式)及び学校行事を円滑に行う。	各教室の椅子・机、体育館の椅子等の教具を適切に管理し、校内の学習環境の向上に努める。	B		
糸学課	「糸学」の円滑な実施のため、教員間での趣旨の共有に努める。	式典・学校行事の総務及び関係分掌との連絡・調整を十分に行うことで、行事の内容を高める。	A	①各式典や学校行事においては、人員配置を工夫し、マニュアルを基に組織的に運営する。②特に年度末、年度始めに業務が集中するため、更に詳細なデータ化やマニュアル化を図っていく。③今年度はデントの新規購入はなかったが、さらに仕分け、整理をして格納する。また、机・椅子の交換は、継続して行う。体育館の椅子に関しては、創立120周年に向けて、現在数と必要数の確認・調整を進めていく。	
		「糸学」の内容について、職員間での情報共有を図ることで内容の深化に努める。	A		
	広く外部に機会を求め、糸学を「活かした学び」とできるように努める。	教員や生徒が郷土について関心を高め、愛着と誇りを持つことができるよう、積極的な情報提供を行う。	B		
研究開発課	教育活動を整理・評価し、改善、改革とともに、優れた活動を継承・発展させるためのしくみをつくる。	大学や地域と広く連携・協力し、多様な人材による出前講義を企画する。	A	①糸高志学の題材について幅広く情報を集め、各学年が協働して取り組むことができるよう、常に活動内容の共有を図る。②県教育委員会や糸島市役所、大学、本校同窓会などから協力を得ることで、学習テーマに広がりを持たせるとともに「主体的・対話的で深い学び」となるよう工夫する。③中学校体験入学や学校案内パンフレット、ホームページなどを通じて情報発信に努める。	
		授業や資料の提示を通して、「糸高志学」の趣旨について全職員で共有する。	A		
	将来、社会で活躍する人材を育成する観点から、次世代の新しい教育手法を導入する。	授業改善、授業力向上の取組みであるI T O K プロジェクトの推進を通して恒常的な研究・開発の組織づくりを進める。	A		
企画支援部	第1学年	福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の成果を活用し、その取組をI T O K プロジェクトに継承する。	A	①アクティブ・ラーニング型の授業を広めるとともに、「深い学び」を実現するため、「深い学び」とは何か、「深い学び」を推進する方策について、全職員で共有していく。②I T O K、学習支援システムと合わせ、R C T (リサーチ・クリエイト)による読解力診断や学力テストへに対応を図る。③eポートフォリオシステムを用いた教員の授業改善、個別学習・グループ学習での活用を通じた授業支援での活用を推進する。	
		将来、社会で活躍する人材を育成する観点から、次世代の新しい教育手法を導入する。	すべての授業において、I C T の活用を含めた21世紀型授業を導入する。		B
	第2学年	ルールやマナー、モラルを守る心、そして思いやりの心豊かな人材を育成する。	時間・挨拶・言葉遣い・話を聞く姿勢など社会人としての資質・能力を高める。集団への帰属意識を高めるため、部活動加入の奨励や、クラス役員活動等を通じ、自己肯定感を高める。授業や自学課題の内容を精選し、常に考えながら学習する習慣を身につけさせる。		A
第3学年	他人の価値観を認め、かつ自らの考えを持って行動し、自ら進んで物事に取り組みする。	自学自習の基礎となる読解力・表現力を高めるために、朝読書や小論文指導を計画的かつ段階的に進めていく。	A	①学習のあり方や将来の進路選択など、広い視野でとらえるようにさせる。また、さまざまな場面での自身の課題にしっかりと向き合うことで学力や人間性の向上を実感させる。また、生徒それぞれの学習目標や進路目標を明確にさせ、学習意欲の喚起を図る。②2年次の糸学では「課題設定」「調べ」「考察する」「まとめる」「伝える」の経験を重ねることで、主体的に判断し行動できる力を付けさせる。	
		保護者との連携を密に取って、生徒に寄り添うことで互いの信頼関係を築き、生徒の積極性を高める。	A		
	社会的多様性と変化を理解し、その中で自分を活かし、成長できる力を育成する。	小論文指導等を通じ、社会についての関心を高め、自己と社会の生活との関わりを大切にさせる。GTECや各種検定への積極的な取組で自己実現への力を養成する。また、GTEC500点以上が40名以上、400点以上が200名以上を目指す。	B		
第3学年	他人の価値観を認め、かつ自らの考えを持って行動し、自ら進んで物事に取り組みする。	出席率99%を目標とする。生徒会役員や部活動のリーダーを中心に生徒会一体となる中で生徒の自立を支援する。	B	①各教科の学習や進路、部活動についての目標を明確にさせるとともに、目標達成に向けた集中心力を培い、計画的に進めることが出来るように指導する。特に学習においては、観点別評価の観点に立ち、学習への関心・意欲や思考・判断・表現の能力、そして「理解」からさらに高められるよう生徒の実態に応じた学習支援を行う。②言葉遣い、身だしなみ、挨拶等の社会ルールやマナーをしっかりと身に付けられるように指導する。そのために、生徒一人ひとりに対して、個に応じた指導を継続的かつ丁寧に行っていく。	
		学校行事や部活動での達成感を味わわせることで、生徒の自己肯定感の高揚を図り、進路実現へとつなげていく。	A		
	成績向上に各教科で指導方針を立て、学年間や各教科担当による細やかな分析を行う。	年5回以上の面談実施により、生徒の志望校合格へ導く。(合格目標：国公立大学50名以上、西南学院大学100名以上、福岡大学150名以上)	B		